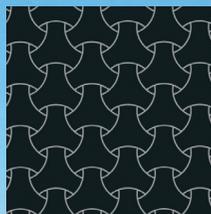
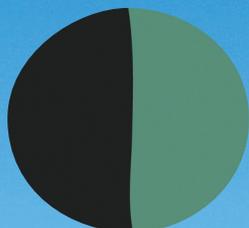


# 明治大学博物館 展覧会案内2017

Exhibition Program of Meiji University Museum, 2017.



## 来館案内

開館時間 10:00~17:00 (入館は16:30まで)  
 休館日 8月10日~16日 12月26日~1月7日  
 8月の土・日曜に臨時休館があります  
 交通 JR 御茶ノ水駅徒歩5分 地下鉄新御茶ノ水駅徒歩8分  
 地下鉄神保町駅徒歩10分  
 住所 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1  
 明治大学アカデミーコモン階  
 TEL.03-3296-4448 FAX.03-3296-4365  
 ホームページ <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

### Opening times

10:00 ~ 17:00 (Last admission 16:30)

### Days Closed

10~16 August 26 December ~ 7 January  
 Temporary closed day in August Please ask us.

### Admission

Regular exhibition: Free  
 Special exhibitions: Fee varies according to each exhibition

### Travel

JR line: Ochanomizu 5min  
 Subway: Shin-Ochanomizu 8min Jinbo-cho 10min

### Address

Meiji University Academy Common Building  
 1-1 Kanda-Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo-to 〒101-8301



## 常設展示

### 商品



当初は貿易商品のサンプルと商品の原材料標本が収集されましたが、その後、地方物産品の収集が始まり、現在では陶磁器、漆器、染織品などの伝統的工芸品を展示しています。かつて秘密のペールに隠されていた原材料と製造過程は、価格形成上の要因として付加価値を示す根拠でもあります。展示では、卓越した職人技と地域色に価値付けられた少量・多品種による高付加価値商品としての現状を紹介しています。

当初は貿易商品のサンプルと商品の原材料標本が収集されましたが、その後、地方物産品の収集が始まり、現在では陶磁器、漆器、染織品などの伝統的工芸品を展示しています。かつて秘密のペールに隠されていた原材料と製造過程は、価格形成上の要因として付加価値を示す根拠でもあります。展示では、卓越した職人技と地域色に価値付けられた少量・多品種による高付加価値商品としての現状を紹介しています。

### 刑事

過去にあった残酷で非人間的な拷問や刑罰を、批判的な視点から回顧するため、刑法典や江戸時代の警察・裁判・刑罰に関わる資料を紹介しています。日本史の教科書でもおなじみの御成敗式目や今川仮名目録など古代から近世に至る著名な刑法典の数々、高札、長柄三道具や十手・捕り縄など江戸時代の捕者道具と取調べの過程で使用された拷問具、裁判を経て執行される刑罰の道具、近代の死刑具や海外の刑罰具などの復元資料も展示しています。



### 考古



日本列島における旧石器時代の存在を初めて証明した1949年の岩宿遺跡発掘以来、日本考古学の発展を担った明治大学による数々の調査の歩みと成果を展示。岩宿の石器(重文)、集落研究の先駆砂川遺跡の石器(重文)、縄文時代の開始時期を大きく遡らせた夏鳥貝塚出土資料(重文)、亀ヶ岡土器と遮光器土偶、稲作開始期の板付土器、深草遺跡の石包丁、出流原遺跡の再葬墓関係資料(重文)、三味塚古墳の甲冑、玉里舟塚古墳の大型埴輪群などがあります。

## 明治大学博物館友の会

講演会、見学会、自主学習会、会員間の交流イベントなどを実施するとともに、明治大学博物館のパートナーとして各種ボランティア活動を展開しています。活動内容や会員募集など、詳しくは館内で配布のリーフレットもしくは当館ホームページをご参照ください。

## 震災遺産展 我曆→ガレキ→我歴

1月8日(日)～2月5日(日) 入場無料

主催 ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会

共催 明治大学博物館 後援 明治大学震災復興支援センター

特別協力 東北大学 総合芸術博物館・グローバル安全学トップリーダー育成プログラム・みちのく震録伝

「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」では、福島県の震災を人類の歴史として継承・共有する資料として、震災が産み出したモノやバショからなる「震災遺産」に着目しています。これらは、日々の暮らしの中で当たり前存在したものがカタチや意味を変えたもの、震災前は想定できなかった非日常の光景等からなります。本展では2014年から調査・保全を開始した震災遺産を展示し、それらが語る「ふくしまの経験」に耳を傾けたいと思います。

写真：体育館に落下した照明(県立富岡高校)



## 新収蔵資料展 20世紀前期の陶磁資料群

鍋島焼の近代 / 柿右衛門様式の復興 / その他

3月1日(水)～4月9日(日) 入場無料

主催 明治大学博物館



写真：染錦間取文八角鉢 第12代酒井田柿右衛門作

比較的近年のものながら将来美術史上に貴重な遺産となり得る、まとまった数の陶磁器関係資料を展示します。乳白色の磁胎に赤・緑の上絵を特徴とする柿右衛門様式は、17世紀後半における輸出仕様のデザインでした。第2次大戦後、第12、13代酒井田柿右衛門によってその技法は復興されますが、受贈した資料の中には12代作とされる染錦手も多く含まれ、その青味を帯びた素地の色と柿右衛門様式の濁し手と呼ばれる純白の肌合いを比較することができます。

## 新収蔵・収蔵資料展2017

4月15日(土)～5月28日(日) 入場無料

主催 明治大学博物館

2016年度に博物館が新たに収集・受贈した資料および関連する収蔵資料を紹介いたします。刑事部門では、館蔵の出羽国関係文書の参考資料として米沢藩領域を描いた絵図、掲出された村名と管轄する役所の判明する高札、組打ち・捕縄術の浅山一傳流関係史料など。商品部門は、備前焼の中でも、作り手の個性・創造性を追求する作家活動による現代的な作風の作品。考古部門では玉里舟塚古墳武人埴輪形土製品のレプリカを制作しています。



写真：米澤様三拾万石図 天保12年(1841)

## 明治大学図書館所蔵 エジプト学貴重書展

6月3日(土)～6月27日(火) 入場無料

主催 明治大学図書館

ナポレオンが1798年にエジプトに侵攻した際の報告書『エジプト誌』初版(1809～22)、ベルリン大学エジプト学初代教授レブシウスの調査報告書『エジプト・エチオピアのモニュメント』(1849～59)、ヒエログリフを解読したシャンポリオンによる調査報告書『エジプトとヌビアのモニュメント』(1835)など、数多くの貴重書を明治大学図書館が所蔵しています。これらは「貴重書」であるがゆえに一般公開される機会が少なかったため、今回、博物館で特別公開します。

写真：レブシウス「エジプト・エチオピアのモニュメント」から新王国テーへの壁画

## 進化する不可能立体錯視

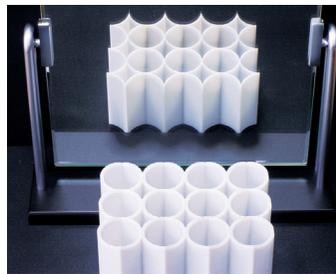
～真実がわかってもし逃れられない不条理の世界～

7月4日(火)～8月20日(日) 入場無料 ※8/10～16は休館

主催 明治大学先端数理科学インスティテュート

私立大学研究ブランディング事業「数理科学する明治大学」錯視学研究グループ人の立体知覚は、2次元に投影された網膜像から欠けた奥行きを読み取らなければならないという危うい作業です。そのためそこには、重力に反する動きが見えたり、鏡に映しただけで姿が激変して見えたりなど、さまざまな錯視が生じる余地があります。錯視をもたらす不可能立体を、第1世代から第6世代までに分類して展示し、数理モデルを使って錯視の仕組みを探る「計算錯視学」の最前線を紹介いたします。

写真：鏡に映すと姿が変わる変身立体「気まぐれパイプ」



## 十手と錦絵 — 描かれた捕者の世界

9月6日(水)～10月10日(火) 入場無料

主催 明治大学博物館

旧刑事博物館設立(1929年)当初から十手や刺又などの捕者道具の収集を開始し、他の追従を許さない貴重なコレクションを作り上げました。また、近世～近代の錦絵も当館の代表的なコレクションの一つですが、その中には芝居の一コマとして十手や刺又、突棒などを使った捕縛の様子が描かれているものもあります。これらの錦絵をみると、捕者道具のイメージがより生き生きと伝わってきます。本展示会では、実物の十手類と錦絵を組み合わせ、当時の捕者のイメージを豊かに描きます。



写真：歌舞伎座新狂言 伴蔵召捕の場

2017年

10月19日(木)  
▶12月17日(日)

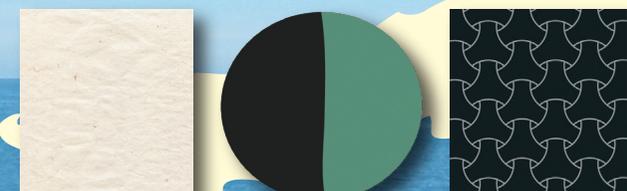
# 鳥取の工芸文化 そして現代

主催 明治大学博物館

鳥取県には国指定伝統的工芸品である因州和紙と弓浜緋以外にも、民藝の窯として名高い牛ノ戸焼をはじめ多様な工芸品があり、豊かな創造性のアイコンとして県の文化・産業・観光振興への寄与が期待されています。天然原料と手作業による産業が、近代における社会経済情勢の変化によって衰退を余儀なくされつつも、今日なお存続し得ている背景には、均で効率的・量産のきく物づくりとは異なる価値観にいち早く目覚めた人々の尽力がありました。この展示会では、手作りの製品が近代という変化の時代を経て、現代の工芸として継承されたプロセスを明らかにします。

特別展

入場料 300円



※都合により展示会の会期及びタイトルについて予告なく変更をすることがあります